



YNU FDニュースレター

2014年3月 特別号

「平成25年度横浜国立大学FD活動報告書」

横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部

目次

1. 巻頭言
2. 研修会・シンポジウムWG活動報告
3. 合宿研修会報告
4. 学生参加型FD活動報告
5. FDニュースレターWG活動報告
6. 公開授業WG活動報告
7. 授業改善WG活動報告
8. 外部セミナー参加実績
9. FD推進部会開催記録

平成25年度 横浜国立大学 FD活動報告書

■ 巻頭言「大学教育の質保証が問われる中で」

FD推進部門長 上野 誠也

FD推進部は、定常的なFD推進活動を進めて行く上で、年度の重点テーマを定めて、企画・運営を行っている。平成25年度に定めた重点テーマは2テーマあり、それぞれに対して、研修会などを企画し、教員への情報提供を行った。いずれも教育の質を高めることを目的としており、現在、大学教育に様々な方向から問われている課題である。

【重点テーマ1】

教員が教える教育から学生が学ぶ教育へ

平成24年8月に文部科学省中央教育審議会が「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」というタイトルの答申を発表した。学生は教わるのではなく、自ら学ぶ力を身に付けることを大学に要求した答申である。答申の中では「学習」という単語が「学修」という単語に切

り替えられている。これを受けて、平成25年度の重点テーマを選んだ。しかし、FD推進部では平成24年度からこの重点テーマを選び、その中でも「アクティブ・ラーニング」に焦点を当てて活動を行っていた。アクティブ・ラーニングと言っても、様々なレベルがあり、今年度は幅広く行った。

初任教員研修会ならびに春学期のFDミニシンポジウムでは、クリッカーの使用体験を実施した。教員と学生の双方向授業のための手軽な機器として、かなりの反響を得た。初任教員向けの公開授業では全く機器を使用しない授業方法を紹介し、逆に夏のFD合宿研修会では情報基盤センター内のシステムを利用した授業方法を取り上げた。教育改善学生グループが推薦授業科目を掲載した学生目線のシラバスによると、多くの授業にアク

ティブ・ラーニングが取り入れられており、それらが学生から高い評価を得ている。教員の中にアクティブ・ラーニングの流れが自然と受け入れられている。今後の発展に期待する。

【重点テーマ2】

教育の質保証に向けて

－授業設計と成績評価－

平成24年度に教務厚生部会に発足した成績評価ガイドライン検討WGは、教育の質保証の観点から成績評価ガイドラインの設定を目標に議論を進めた。その結論として、授業設計のレベルから考慮しなければ優秀な学生を育てる教育は無理と判断し、平成25年度から「授業設計と成績評価ガイドライン検討WG」として活動を続けた。FD推進部は他大学の情報を基に当WGに検討のたたき台を提供した。その議論の中で、ルーブリックによる成績評価の手法を検討する方向性が生まれた。FD推進部では、平成25年3月に成績評価ガイドラインを導入した弘前大学に調査訪問を行い、FD合宿研修会において「教育の質保証に向けて－

授業設計と成績評価－」をテーマに掲げたルーブリック導入の検討を行った。本テーマは各部局との意見調整がまだ必要であり、次年度も重点テーマに選ぶ予定である。

平成26年度へ向けて

平成26年度はFD推進活動の質を高める方向に進めたい。FD推進部会が進めている企画の数は十分にあり、量を増やすよりも、一つ一つの企画を充実させる方が重要である。そのためには、FD推進部単独で活動を進めるのではなく、他の組織等と連携を持った活動を行いたい。具体的には、アクティブ・ラーニングの延長として情報基盤センターなどの他の組織との連携や、教員だけのFDではなく、職員や学生との連携を深めたFDである。特に後者は本学の特色として成長できるベースがあり、新しいタイプのFDとして他大学からも注目されている。平成26年度は、多くの方の協力を得て、FD推進活動の質を高める1年としたい。

研修会・シンポジウムWG活動報告

FD推進部 上野 誠也

1) 初任教員研修会

開催目的：平成24年4月2日から平成25年4月1日までに本学および附属学校に採用された教員を主たる対象とした研修会である。横浜国立大学の教育理念・教育目標などを踏まえて、魅力ある授業を行うための教育改善に取り組むと共に、初任教員が部局を超えて本学への帰属意識を持つきっかけになる場を設けることを目的とした。

研修は例年通り二部の構成とし、第一部では学長をはじめとする6名の方に講演をお願いし、横浜国大の取組を紹介していただいた。第二部は大学教員と附属学校教員とを分けて、前者をFD推進部が担当した。

開催日時：平成25年4月1日 13:00～16:00

開催場所：経営学部1号館2階大会議室他

参加者数：59名（うち大学教員30名）



初任教員研修会の風景

プログラム：

【第一部】（全体で実施）

- 大学の概況について…………… 鈴木 邦雄 学長
 - 本学の研究について…………… 國分 泰雄 理事
 - 本学の教育について…………… 溝口 周二 理事
 - 本学の教育研究評価について……………
- 山田 均 副学長

ティブ・ラーニングが取り入れられており、それらが学生から高い評価を得ている。教員の中にアクティブ・ラーニングの流れが自然と受け入れられている。今後の発展に期待する。

【重点テーマ2】

教育の質保証に向けて

ー授業設計と成績評価ー

平成24年度に教務厚生部会に発足した成績評価ガイドライン検討WGは、教育の質保証の観点から成績評価ガイドラインの設定を目標に議論を進めた。その結論として、授業設計のレベルから考慮しなければ優秀な学生を育てる教育は無理と判断し、平成25年度から「授業設計と成績評価ガイドライン検討WG」として活動を続けた。FD推進部は他大学の情報を基に当WGに検討のたたき台を提供した。その議論の中で、ルーブリックによる成績評価の手法を検討する方向性が生まれた。FD推進部では、平成25年3月に成績評価ガイドラインを導入した弘前大学に調査訪問を行い、FD合宿研修会において「教育の質保証に向けてー

授業設計と成績評価ー」をテーマに掲げたルーブリック導入の検討を行った。本テーマは各部局との意見調整がまだ必要であり、次年度も重点テーマに選ぶ予定である。

平成26年度へ向けて

平成26年度はFD推進活動の質を高める方向に進めたい。FD推進部会が進めている企画の数は十分にあり、量を増やすよりも、一つ一つの企画を充実させる方が重要である。そのためには、FD推進部単独で活動を進めるのではなく、他の組織等と連携を持った活動を行いたい。具体的には、アクティブ・ラーニングの延長として情報基盤センターなどの他の組織との連携や、教員だけのFDではなく、職員や学生との連携を深めたFDである。特に後者は本学の特色として成長できるベースがあり、新しいタイプのFDとして他大学からも注目されている。平成26年度は、多くの方の協力を得て、FD推進活動の質を高める1年としたい。

研修会・シンポジウムWG活動報告

FD推進部 上野 誠也

1) 初任教員研修会

開催目的：平成24年4月2日から平成25年4月1日までに本学および附属学校に採用された教員を主たる対象とした研修会である。横浜国立大学の教育理念・教育目標などを踏まえて、魅力ある授業を行うための教育改善に取り組むと共に、初任教員が部局を超えて本学への帰属意識を持つきっかけになる場を設けることを目的とした。

研修は例年通り二部の構成とし、第一部では学長をはじめとする6名の方に講演をお願いし、横浜国大の取組を紹介していただいた。第二部は大学教員と附属学校教員とを分けて、前者をFD推進部が担当した。

開催日時：平成25年4月1日 13:00~16:00
 開催場所：経営学部1号館2階大会議室他
 参加者数：59名（うち大学教員30名）



初任教員研修会の風景

プログラム：

【第一部】（全体で実施）

大学の概況について…………… 鈴木 邦雄 学長
 本学の研究について…………… 國分 泰雄 理事
 本学の教育について…………… 溝口 周二 理事
 本学の教育研究評価について…………… 山田 均 副学長

情報セキュリティについて……………

長谷部 勇一 情報基盤センター長
 就業規則等について……………

山中 次男 人事・労務課長
 大学職員の役割について…………… 有松 育子 理事

【第二部】（大学初任教員対象）

大学教育総合センターとは……………

小野 康男 大学教育総合センター長
 FD推進部の話…………… 上野 誠也 FD推進部門長
 授業コンサルティングの紹介……………

安野 舞子 FD推進部講師
 【ワークショップ】魅力ある授業へ向けて……………
 FD推進部

【第二部】（附属学校初任教員対象）

附属学校初任教員研修会……………

教育人間科学部にて実施



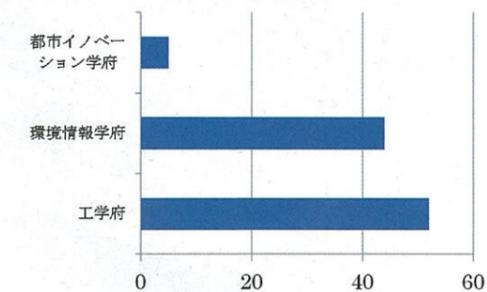
初任教員研修会で使用したクリッカー

成果と課題：第二部は大学初任教員と附属学校初任教員の2グループに分けて実施する方式を今年度も採用した。FD推進部は大学初任教員のみを対象としたグループを担当し、アクティブ・ラーニングに関する講演会を実施した。講演の中ではクリッカーを用いた授業を体験してもらった。終了後のアンケートを見ても、クリッカーの使用の反響はかなり良好であった。これを受けて、春学期のFDミニシンポジウムではクリッカーを体験する研修会を行うことにした。

2) TA研修会

開催目的：恒例となったTA（ティーチング・アシスタント）の導入教育を実施した。TAの指導は担当教員に任せられているが、受講学生の履修を援助する技術を高めることを目的とした。今年度も、実験・演習担当と講義・ゼミ担当とに分けて、実施した。TAの確定時期と作業の開始時期を考慮し、2グループに分ける必要がある。

【実験・演習担当】



TA研修会の学府別参加者数
 （実験・演習担当）

開催日時：平成25年4月10日 16:20~17:40

開催場所：理工学部事務棟第1会議室

参加者数：101名

プログラム：

1. TAの役割と責任
2. TA実践ワークショップ
3. TA経験者インタビュー
4. 質疑応答



ディスカッションをするTA研修会参加者

[講義・ゼミ担当]

開催日時：平成25年5月29日 16：20～17：40

開催場所：教育人間科学部7号館201教室

参加者数：11名

プログラム：

1. TAの役割と責任
2. TA実践ワークショップ
3. TA経験者からのコメント紹介
4. 質疑応答



講義・ゼミ担当の参加者

成果と課題： TA研修会を今年度も同じ形式で実施した。自由参加型の研修会とし、実験・演習担当には101名、講義・ゼミ担当には11名の参加者があった。ワークショップの内容は、実験・演習担当では実際の実験室で起こる課題を考えさせ、講義・ゼミ担当ではTAの仕事を考えさせる内容とした。

理系学生でも5月に開催した講義・ゼミ担当の研修会に参加するTAがいた。今まで理系と文系に分けたタイトルを付けて実施しているが、TAに必要な意識を異なる観点で議論する研修会とした方が適しているかもしれない。次年度の実施では、この点を改善することを検討課題とする。

3) FDミニシンポジウム

「学生との双方向授業のすすめ

—クリッカーを用いた授業—

開催目的： FD推進部では、身近なFDとして、各部局の教授会の前に30分のFDミニシンポジウムを平成22年度から実施している。今年度のテーマにアクティブ・ラーニングに関係してクリッカーの実体験を掲げた。初任教員研修会で行った内容を参考にして、利用する立場の情報を紹介した。

すでにクリッカーを使用している学部を除き、経済学部と理工学部でFDミニシンポジウムを実施した。

【経済学部】

開催日時：平成25年7月1日 13：00～13：30

開催場所：経済学部新棟大研究会議室

【理工学部】

開催日時：平成25年7月22日 13：00～13：30

開催場所：理工学部事務棟第1会議室



クリッカーを体験中の参加者

成果と課題： クリッカーを用いることで、学生と教員との間にリアルタイムのコミュニケーションが生まれ、学生の意図している内容や理解度を教員や受講学生が把握することができる。多くの参加者はクリッカーの存在すら知らなかったが、使用体験を通じて、半数の参加者が授業で使ってみたいと回答した。このような授業改善に繋がる情報を紹介するにはFDミニシンポジウムの形式は効果的である。より効果を上げるためには、どのような情報を参加者が欲しがっているかを正確につかむ必要がある。

4) FDシンポジウム

「教職学連携で創る

アクティブ・ラーニング」

開催目的： FDシンポジウムは外部から講師を呼んで話を聞き、そのテーマについて参加者が互いに議論することを目的としている。

今年度のFDシンポジウムのテーマは、重点テ

〔講義・ゼミ担当〕

開催日時：平成25年5月29日 16：20～17：40

開催場所：教育人間科学部7号館201教室

参加者数：11名

プログラム：

1. TAの役割と責任
2. TA実践ワークショップ
3. TA経験者からのコメント紹介
4. 質疑応答



講義・ゼミ担当の参加者

成果と課題： TA研修会を今年度も同じ形式で実施した。自由参加型の研修会とし、実験・演習担当には101名、講義・ゼミ担当には11名の参加者があった。ワークショップの内容は、実験・演習担当では実際の実験室で起こる課題を考えさせ、講義・ゼミ担当ではTAの仕事を考えさせる内容とした。

理系学生でも5月に開催した講義・ゼミ担当の研修会に参加するTAがいた。今まで理系と文系に分けたタイトルを付けて実施しているが、TAに必要な意識を異なる観点で議論する研修会とした方が適しているかもしれない。次年度の実施では、この点を改善することを検討課題とする。

3) FDミニシンポジウム

「学生との双方向授業のすすめ

—クリッカーを用いた授業—

開催目的： FD推進部では、身近なFDとして、各部局の教授会の前に30分のFDミニシンポジウムを平成22年度から実施している。今年度のテーマにアクティブ・ラーニングに関係してクリッカーの実体験を掲げた。初任教員研修会で行った内容を参考にして、利用する立場の情報を紹介した。

すでにクリッカーを使用している学部を除き、経済学部と理工学部でFDミニシンポジウムを実施した。

【経済学部】

開催日時：平成25年7月1日 13：00～13：30

開催場所：経済学部新棟大研究会議室

【理工学部】

開催日時：平成25年7月22日 13：00～13：30

開催場所：理工学部事務棟第1会議室



クリッカーを体験中の参加者

成果と課題： クリッカーを用いることで、学生と教員との間にリアルタイムのコミュニケーションが生まれ、学生の意図している内容や理解度を教員や受講学生が把握することができる。多くの参加者はクリッカーの存在すら知らなかったが、使用体験を通じて、半数の参加者が授業で使ってみたくて回答した。このような授業改善に繋がる情報を紹介するにはFDミニシンポジウムの形式は効果的である。より効果を上げるためには、どのような情報を参加者が欲しがっているかを正確につかむ必要がある。

4) FDシンポジウム

「教職学連携で創る

アクティブ・ラーニング」

開催目的： FDシンポジウムは外部から講師を呼んで話を聞き、そのテーマについて参加者が互いに議論することを目的としている。

今年度のFDシンポジウムのテーマは、重点テ

マの「教員が教える教育から学生が学ぶ教育へ」に関係するアクティブ・ラーニングを取り上げ、それを教員・職員・学生の連携で育てることを目指した。外部からの講師には、職員と教員のそれぞれの立場から話題を提供していただく方を選び、ワークショップでは、教員・職員・学生が混ざって議論する場を設けた。

開催日時：平成25年11月5日 13：00～16：00

開催場所：本部棟3階大会議室

参加者数：教員13名、職員6名、学生6名

プログラム：

挨拶…………… 小野 康男 大学教育総合センター長

開催趣旨…………… 上野 誠也 FD推進部門長

第1部 講演「主体的な学びを促す仕組み

一人が育つ大学—

…………… 高知工科大学 企画監/入試・広報部長

福田 直史 氏

第2部 講演「深い学修を導くアクティブ・ラー

ニング」

…………… 山形大学 高等教育研究企画センター

杉原 真晃 氏



参加者との会話を取り入れる杉原氏

第3部 グループ・ディスカッション

「教職学連携で創るアクティブ・ラーニング」

成果と課題： 教員・職員・学生が一つのテーブルに座り、教育に関する議論を行った企画は目的通りに達成した。まず、学生から見たよいアクティブ・ラーニングは何かを教育改善学生スタッフから発言してもらい、それをもとに、大学や教員が行うことは何かを考える企画であった。議論が白熱して、時間内にまとめることができなかった班が多かった。

参加者に本シンポジウムに関するアンケートを協力していただいた。内容の構成や講師陣は高い評価を得ているが、時間配分の欠点が指摘されている。なお、開催時期は意見が分かれており、今後の検討課題となっている。



熱い語りの福田氏の講演

合宿研修会報告

FD推進部会 板垣 勝彦

平成25年度横浜国立大学FD合宿研修会は、平成25年8月28日（水）と29日（木）の2日間にわたって、三浦半島にあるマホロバ・マインズ三浦で開催された。両日ともに参加者の間で活発な討論が交わされ、有意義な合宿となった。

〈8月28日（水）〉

第一部 ミクロな視点でアクティブラーニングを考える

講演－1「アクティブラーニング」

FD推進部門長 上野 誠也

WS-1 授業内の改善例

第二部 マクロな視点でアクティブラーニングを考える

講演－2「経済学部での事例紹介」

国際社会科学研究院教授 大門 正克

WS-2 PBL授業について

〈8月29日（木）〉

第三部 マクロな視点で教育の質保証を考える

講演－3「本学における教育の質保証への取組」

FD推進部門長 上野 誠也

講演－4「大学教育の質保証」

国立教育政策研究所高等教育研究部長

川島 啓二

WS－3 今後の取組提案

第四部 ミクロな視点で教育の質保証を考える

講演－5「授業設計と成績評価」

FD推進部門長 上野 誠也

WS－4 授業設計と成績評価



1日目 合宿研修会参加者



2日目 合宿研修会参加者

合宿研修会報告

FD推進部会 板垣 勝彦

平成25年度横浜国立大学FD合宿研修会は、平成25年8月28日（水）と29日（木）の2日間にわたって、三浦半島にあるマホロバ・マイズ三浦で開催された。両日ともに参加者の間で活発な討論が交わされ、有意義な合宿となった。

〈8月28日（水）〉

第一部 ミクロな視点でアクティブラーニングを考える

講演－1「アクティブラーニング」

FD推進部門長 上野 誠也

WS-1 授業内の改善例

第二部 マクロな視点でアクティブラーニングを考える

講演－2「経済学部での事例紹介」

国際社会科学研究院教授 大門 正克

WS-2 PBL授業について

〈8月29日（木）〉

第三部 マクロな視点で教育の質保証を考える

講演－3「本学における教育の質保証への取組」

FD推進部門長 上野 誠也

講演－4「大学教育の質保証」

国立教育政策研究所高等教育研究部長

川島 啓二

WS-3 今後の取組提案

第四部 ミクロな視点で教育の質保証を考える

講演－5「授業設計と成績評価」

FD推進部門長 上野 誠也

WS-4 授業設計と成績評価



1日目 合宿研修会参加者



2日目 合宿研修会参加者

学生参加型FD活動報告

FD推進部 安野 舞子

学生参加型FD活動報告

結成から3期目を迎えた本年度の教育改善学生FDグループ（以下、学生FDグループ）は、卒業や非継続によりスタッフ数は前年度より減少したものの、新入生2名、留学生2名が新たに加わり10名で活動を行った（ただし、この内の2名は夏以降、留学のため不在）。特に留学生については、留学生センター教員（FD推進部会委員）のご尽力の下、スタッフに志願してもらったが、全国的に見ても学生FD活動に留学生が加わるのは珍しいケースと思われる。

本年度も、下記のように学教職一体となって活発な活動を行った：

1) 学生・教職員合同会議

月1回開催する学生・教職員合同会議は、平成25年4月から平成26年2月までに計10回開催された。各会議での主な議題は下記の通り：

第22回（4/5）：新規スタッフ希望者について／学内での格言掲示について

第23回（5/8）：新代表・副代表の選出について／留学生スタッフの募集について

第24回（6/19）：オープンキャンパス企画について／「学バス」の作成について

第25回（7/19）：学生FDサミット2013夏での企画について／学生便覧の作成協力について

第26回（9/26）：活動資金の有効活用について／「学バス」用アンケートの実施について

第27回（10/25）：学生発案型授業の検討について／学生FDグループの規約作成について

第28回（11/27）：CM作成について／学生発案型授業について

第29回（12/11）：「学バス」の進捗について／学生便覧について

第30回（1/29）：新入生歓迎について／「学バス」について

第31回（2/27）：新代表・副代表の選出について／来年度継続スタッフについて

2) 学生FDグループ企画のイベント

本年度も、学生FDグループが様々なイベントを企画実施した：

■「ランチ・ミーティング」の実施

新規スタッフの勧誘を兼ね、4月上旬から中旬にかけて、平日昼休みに学生センター1階ホールにて、誰でも自由に参加できる話し合いの場を設けた。参加者は延べ人数で十数名程度であったが、その中から1年生2名が新規スタッフに志願してくれた。

■「格言」の掲示

学生の学習意欲の向上や、不登校・心の病予備軍への支援の意味を含め、歴史的人物や著名人のいわゆる「格言」を紹介した。5月下旬から7月下旬にかけて、図書館前のメインストリートに週毎に内容を入れ換えて掲示した。

■オープンキャンパスでの「学生講義」

高校生やその保護者を対象に、「大学での学び」について学生目線から講義した。複数のセッションを設けたが、参加総数は500名を超えた。

■「学生目線のシラバス」の作成

昨年度に引き続き、学生目線からよい（お奨めの）授業を紹介する新入生向けのシラバス—通称「学バス」—を作成した。来年度（26年度）の新入生オリエンテーションで配布予定。

■「学生発案型授業」の企画立案

学生が自ら学びたい授業を企画提案し、教員と協働しながら創り上げていく授業。学生FDスタッフから4件案が出され、その内2件が来年度開講科目として採択された。



オープンキャンパスでの学生講義



学生FDサミット2013夏
ポスターセッションにおける活動の紹介

3) 他大学でのイベントへの参加実績

「学内重点化競争的経費」より配分していた予算で、他大学での教育改善に関するイベント等に学生FDスタッフを派遣した：

■第2回学生FD合同連絡会議および第1回学生FD勉強（研究）会@東洋大学（5/25）

■学生FDサミット2013夏

@立命館大学（8/24、25）

■学生FDサミット2014春プレ企画

@東洋大学（12/14）

※本イベントには学生FDスタッフ4名が実行委員として企画運営にあたった。

■学生リーダーシップ・カンファレンス

@京都外国語大学（12/14）

■学生FDサミット2014春

@東洋大学（3/8、9）

※本サミットには学生FDスタッフ4名が実行委員として企画運営にあたった。

FDニューズレターWG活動報告

FD推進部 新谷 康浩

FDニューズレターは、平成23年度第16号より、インターネット上で公開されるウェブ版と、印刷物の紙媒体版の2種類の形式で発行されている。ウェブ版では、従来通りの充実した内容を掲載し、紙媒体版はウェブ版の内容を要約（4頁）している。今年度は、第24号から27号と特別号を発行した。各号の記事内容はFDニューズレター発行記録に示す。次年度は印刷版の内容を革新する予定である。

1) 第24号（2013年6月発行、11頁 [4頁]）

- (1) 平成25年度FD推進部活動方針
- (2) 平成25年度初任教員研修会を開催
- (3) TA研修会（実験・演習系）を開催
- (4) クリッカー紹介

(5) 他大学訪問調査（弘前大学）

(6) 第19回大学教育研究フォーラム参加報告

(7) FD合宿研修会のお知らせ

2) 第25号（2013年9月発行、18頁 [4頁]）

(1) FD合宿研修会報告

重点テーマを議論する研修会／重点テーマⅠ／重点テーマⅡ

(2) 春学期公開授業の報告

教育人間科学部／経済学部／経営学部／理工学部

(3) オープンキャンパスでの学生講義

(4) FDミニシンポジウム

(5) TA研修会（文系）



オープンキャンパスでの学生講義



学生FDサミット2013夏
ポスターセッションにおける活動の紹介

3) 他大学でのイベントへの参加実績
「学内重点化競争的経費」より配分していただいた予算で、他大学での教育改善に関するイベント等に学生FDスタッフを派遣した:

■第2回学生FD合同連絡会議および第1回学生FD勉強(研究)会@東洋大学(5/25)

■学生FDサミット2013夏
@立命館大学(8/24、25)

■学生FDサミット2014春プレ企画
@東洋大学(12/14)
※本イベントには学生FDスタッフ4名が実行委員として企画運営にあたった。

■学生リーダーシップ・カンファレンス
@京都外国語大学(12/14)

■学生FDサミット2014春
@東洋大学(3/8、9)
※本サミットには学生FDスタッフ4名が実行委員として企画運営にあたった。

FDニュースレターWG活動報告

FD推進部 新谷 康浩

FDニュースレターは、平成23年度第16号より、インターネット上で公開されるウェブ版と、印刷物の紙媒体版の2種類の形式で発行されている。ウェブ版では、従来通りの充実した内容を掲載し、紙媒体版はウェブ版の内容を要約(4頁)している。今年度は、第24号から27号と特別号を発行した。各号の記事内容はFDニュースレター発行記録に示す。次年度は印刷版の内容を革新する予定である。

1) 第24号(2013年6月発行、11頁[4頁])

- (1) 平成25年度FD推進部活動方針
- (2) 平成25年度初任教員研修会を開催
- (3) TA研修会(実験・演習系)を開催
- (4) クリッカー紹介

- (5) 他大学訪問調査(弘前大学)
- (6) 第19回大学教育研究フォーラム参加報告
- (7) FD合宿研修会のお知らせ

2) 第25号(2013年9月発行、18頁[4頁])

- (1) FD合宿研修会報告
重点テーマを議論する研修会/重点テーマI/重点テーマII
- (2) 春学期公開授業の報告
教育人間科学部/経済学部/経営学部/理工学部
- (3) オープンキャンパスでの学生講義
- (4) FDミニシンポジウム
- (5) TA研修会(文系)



YNU FDニュースレター

2013年6月 第24号
横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部

目次

1. 平成25年度FD推進部活動方針
2. 初任教員研修会を開催
3. TA研修会(実験・演習系)を開催
4. クリッカー紹介
5. 他大学訪問調査(弘前大学)
6. 第19回大学教育研究フォーラム参加報告
7. FD合宿研修会のお知らせ

平成25年度FD推進部活動方針

FD推進部門長 上野 誠也

主体的な学びを自主的な改善で
平成24年8月の文部科学省中央教育審議会が発した答申は学生の「主体的学び」を促す教育を目指すように大学教育の質的転換を促した。当FD推進部では、一昨年度からアクティブ・ラーニングをテーマに取り上げ、学生の受け身の学習から脱却し、学生が行動的に学習する教育手法の提供を続けてきた。今年もテーマに継ぎ、教員の自主的な改善が学生の主体的な学びに繋がることを期待している。

重点テーマ
今年度のFD推進部の活動方針を決めるにあたって、重点テーマを設定した。今年度は以下の2テーマを設定した。

マを設定した。
◆教員が教える教育から学ぶ教育へ
平成23年度のFDシンポジウムで取り上げたテーマ「アクティブ・ラーニング」を学内に展開させ、学生が主体的に学ぶ環境を構築して取り入れることを勧める。具体的には以下の候補がある。
・FD合宿研修会にて学内の事例を紹介してもらい、各部署の情報共有を行うとともに、参加者のFDリーダー等に要点を整理してもらおう。
・FDミニシンポジウム等を開催して、各部署へアクティブ・ラーニングの手法を広く情報提供する。
◆教育の質保証に向けて「授業設計と成績評価」
大学教育の質保証が問われている。学生の成長

ニュースレター第24号表紙

公開授業WG活動報告

FD推進部会 松行 美帆子

今年度は、春学期および秋学期に下記の9つの公開授業が開催された。公開授業は、ベストティーチャーを受賞した先生方を中心に、授業の様子を他の教員に公開するのが目的である。授業後に、担当教員を含めて参加者で意見交換を行う時間を設け、授業に対する考え方などの議論も実施されている。今年度実施された公開授業の内容は、一般の教室での講義型授業から少人数ゼミまで様々なタイプの授業が揃っていた。

春学期の講義名と担当者、実施日時(4回)

- ①「流体力学I」 荒木 拓人 准教授
7月5日(金) 5限
- ②「大森ゼミナール(3年)」 大森 義明 教授
7月9日(火) 5限

③「財務論I」 森田 洋 教授
7月11日(木) 4限

④「中等音楽科教育法」 小川 昌文 教授
7月23日(火) 2限

秋学期の講義名と担当者、実施日時(5回)

- ⑤「物理工学実験情報演習Ⅲ」
中村 正吾 准教授
12月4日(水) 3限
- ⑥「課題プロジェクト演習:初歩からの英語によるスピーチとディベート」 石渡 圭子 講師
12月6日(金) 2限
- ⑦「日本語初級インテンシブ」
中川 健司 准教授
12月6日(金) 2限

⑧「復元生態学」 森 章 准教授
12月6日（金）3限

ご多忙にも関わらず、ご協力頂きました先生方に御礼申し上げます。

⑨「人的資源管理論Ⅱ」 二神 枝保 教授
12月19日（木）3限

授業改善WG活動報告

FD推進部 安野 舞子

前年度のWGでの議論、提案、そしてFD推進部会での承認を受けて、本年度は以下のような変更が授業アンケートおよび自己点検票に反映された：

1. アンケート項目の見直し

■従前のQ8を下記のように変更した：

（旧）授業内容についてどの程度理解できましたか

（新）教員は、授業で内容を丁寧に説明していましたか。

■従前のQ9を下記のように変更し、Q10に移行した：

（旧）この授業で考え方・知識・技術などが向上したと思いますか。

（新）授業の到達目標で示された知識や能力は身についたと思いますか。

■Q9として下記の設問を追加した：

（新）授業の内容は理解できたと思いますか。

※Q4～Q8：授業の進め方および内容について、
Q9～Q11：総合評価

2. アンケート結果表への記載項目追加

各教員に返却されるアンケート結果表に標準偏差を追加した。

3. 自己点検票の改良

学務情報システムから自己点検票をオンライン入力できるようにした。

本WGでは、次年度（26年度）に向けての議論も行ったが、過去2年度にわたって「授業評価アンケートの抜本的改革」と称して大きな改革を行ったため、暫くは改革後の様子を見ることとし、授業アンケートの見直しは行わないことにした。しかし、学部によっては「アンケート項目の見直しをしたい」という意見もあったため、一度、全学教員を対象とした「授業アンケートに関する一斉アンケート」を実施することを今後検討する予定である。

⑧「復元生態学」 森 章 准教授
12月6日（金）3限

ご多忙にも関わらず、ご協力頂きました先生方に御礼申し上げます。

⑨「人的資源管理論Ⅱ」 二神 枝保 教授
12月19日（木）3限

授業改善WG活動報告

FD推進部 安野 舞子

前年度のWGでの議論、提案、そしてFD推進部会での承認を受けて、本年度は以下のような変更が授業アンケートおよび自己点検票に反映された：

1. アンケート項目の見直し

■従前のQ8を下記のように変更した：

（旧）授業内容についてどの程度理解できましたか

（新）教員は、授業で内容を丁寧に説明していましたか。

■従前のQ9を下記のように変更し、Q10に移行した：

（旧）この授業で考え方・知識・技術などが向上したと思いますか。

（新）授業の到達目標で示された知識や能力は身についたと思いますか。

■Q9として下記の設問を追加した：

（新）授業の内容は理解できたと思いますか。

※Q4～Q8：授業の進め方および内容について、
Q9～Q11：総合評価

2. アンケート結果表への記載項目追加

各教員に返却されるアンケート結果表に標準偏差を追加した。

3. 自己点検票の改良

学務情報システムから自己点検票をオンライン入力できるようにした。

本WGでは、次年度（26年度）に向けての議論も行ったが、過去2年度にわたって「授業評価アンケートの抜本的改革」と称して大きな改革を行ったため、暫くは改革後の様子を見ることとし、授業アンケートの見直しは行わないことにした。しかし、学部によっては「アンケート項目の見直しをしたい」という意見もあったため、一度、全学教員を対象とした「授業アンケートに関する一斉アンケート」を実施することを今後検討する予定である。

外部セミナー参加実績

学外で開催されたFD推進に関するシンポジウムや講演会、または、教育プログラムの成果報告会にFD推進部会委員や職員が積極的に参加し、情報を収集した。収集された情報はFDニュースレターを通して本学教員へ伝えられた。以下の表は参加実績の一部を示している。なお、参加数欄の[]内は教育改善学生スタッフの参加数であり、外数として記載した。

シンポジウム等の名称	開催日	開催地	参加数
関東圏FD学生連絡会議	2013/5/25	東京	3[2]
大学教育学会 第34回大会「教育から学習への転換」	2013/6/1～2	仙台	1
学生FDサミット・2013夏	2013/8/28～29	京都	1[8]
長崎外国語大学FD研修会「大学教育におけるルーブリックの役割ー「授業づくり」と「ディプロマポリシー」の二つの側面から考える」	2013/9/3	長崎	1
静岡大学 大学夏期FD講演会「GPA制度と成績評価」	2013/9/13	静岡	1
大学基準協会 大学・短期大学スタディー・プログラム～Advancedコース 「教育効果を高める取り組みの実践」	2013/9/20	東京	1
法政大学 第11回FDシンポジウム「学部・学科内での特色あるFDについて考える」	2013/10/5	東京	1
京都三大学教養教育研究・推進機構（教育IRセンター）平成25年度 第4回 公開研究会「コンピテンシー型教養教育の問題と再構築の指針ー高等教育の質保証をふまえてー」	2013/10/15	京都	1
産学協同就業力育成シンポジウム2013～主体性が学生を変える、学生が社会を変える～	2013/11/28	東京	1
神奈川大学FD研修会「学生の自律的・主体的な学びを促す授業実践」	2013/12/4	神奈川	1
法政大学 第9回FDフォーラム「わかりやすいFDについて考える」	2013/12/7	東京	2
教育改革国際シンポジウム～TUNING-AHELO コンピテンシス枠組の共有と水準規定によるグローバル質保証～	2013/12/10	東京	1
学生FDサミットイベント「大学再考大作戦」	2013/12/14	東京	2[4]
学生リーダーシップ・カンファレンス	2013/12/14	京都	1[1]
学生FDサミット2014春	2014/3/8-9	東京	3[4]
第19回 大学教育研究フォーラム	2014/3/18-19	京都	1

他大学訪問調査の受入れ実績

平成25年度も他大学からの訪問調査を受け、それに教務課とFD推進部で対応した。平成25年度から本学が他大学より先行して導入したYNU学生ポートフォリオに関する調査が多かった。

訪問日	調査内容	訪問者人数	本学対応人数
2013/12/18	学士課程教育構築に関する貴学の先進的な取組みに係る調査	3名	教員2名、職員3名
2013/2/21	「YNU学生ポートフォリオ」について	4名	教員2名、職員3名

FD推進部会開催記録

No.	開催日時	議 題
1	平成25年 5月10日 (金) 10:30~12:00	平成24年度事業報告/平成25年度事業計画/TA研修会一講義担当一の実施/平成25年度春学期授業アンケート/FDニュースレターの発行/平成25年度学内重点化競争的経費の申請/平成25年度公開授業/教育改善学生スタッフの委嘱/など
2	平成25年 6月14日 (金) 9:00~9:50	FD合宿研修会/公開授業/「学生による授業アンケート」に基づく自己点検票の作成/FDミニシンポジウムの開催/など
3	平成25年 7月16日 (火) 16:00~17:05	平成25年度FD合宿研修会/FDニュースレター/教育改善学生スタッフの委嘱/など
4	平成25年 9月20日 (金) 14:00~14:50	公開授業/FDシンポジウム/など
5	平成25年10月15日 (月) 9:00~10:00	FDニュースレター/公開授業/FDシンポジウム/予算執行/など
6	平成25年11月15日 (金) 9:00~10:10	公開授業/予算執行/次年度に向けて/など
7	平成25年12月24日 (火) 9:00~10:05	次年度に向けて/授業アンケート/など
8	平成26年 1月24日 (金) 9:00~9:50	FDニュースレター第27号・活動報告書/次年度に向けて/など
9	平成26年 2月20日 (木) 9:00~10:00	初任教員研修会/平成26年度TA研修会/次年度に向けて/など

平成25年度FD推進部会委員

部門長・兼務教員	上野 誠也	国際社会科学研究所	板垣 勝彦
兼務教員	新谷 康浩	工学部	浅見 真年
専任教員	安野 舞子	環境情報研究院	中本 淳浩
教育人間科学部	小川 昌文	都市イノベーション研究院	松行美帆子
経済学部	相馬 直子	留学生センター	長谷川健治
経営学部	柴田 裕通		

YNU FDニュースレター 特別号 「平成25年度FD推進部活動報告書」

編集/横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部
 作成担当: ニュースレター・ワーキンググループ
 事務担当: 教務課
 問合せ先: saito.toshihiro@ynu.ac.jp
 発行/平成26年3月

※ご意見・ご感想がありましたら、上記宛までお寄せ下さい。